

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の 編集にあたって

伊 藤 実^{†1}

前任の城先生に代わり、2008 年 4 月より、伊藤が情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用の編集委員長を務めております。前編集委員長には、4 年間にわたり本論文誌の取りまとめに御尽力いただいたこと、深く御礼申し上げます。なお、城先生には副編集委員長として引き続き本論文誌の編集に携わっていただいています。また、廣安先生、古瀬先生にも副編集委員長を継続していただいています。

TOM21 では、2006 年 5 月の MPS59 (名古屋) から 1 編、2007 年 12 月の MPS67 (東京) から 11 編、2008 年 3 月の MPS68 (道後温泉) から 1 編、研究会非連動の再投稿論文 1 編の合計 14 編を掲載しています。TOM21 の採録論文数/投稿論文数は 14/40 で、採択率は 35%となります。

今回、オリジナル論文 12 編に加えて、システム開発論文のカテゴリーから 2 編が TOM に初めて掲載されています。城前編集委員長からの言葉ですが、システム開発論文とは、これまで解決できなかった問題や、解決がコスト等のため難しかった問題に、提案システムを適用することで、それらが新たに解決されたり、効率良く解決されたりすることを報告する論文です。従来、有用なシステム (ソフトウェア) を開発しても、論文として発表することが難しいことが多々ありましたが、本カテゴリーの論文として積極的なご投稿を期待しています。その他のカテゴリーとして、事例紹介論文、サーベイ論文もあります。それぞれオリジナル論文とは異なる観点からの採録基準で査読を行います。また、本論文誌の特徴の 1 つとして、いったん不採録と判定されても価値があると認められる論文については再投稿を勧めるということがあります。これまでも多くの論文が再投稿 (あるいは、再々投稿) を経て掲載されています。

今号の採録論文 14 編の担当編集委員は、安藤 晋、北 栄輔、栗原正仁、小林 聡、笹倉 万里子、佐藤彰洋、鈴木智也、林 幸雄、藤本典幸、Paul Horton、棟朝雅晴、山崎浩一となっています。

なお、今年度から新たに編集委員に加わっていただいた方は下記のとおりです (敬称略)。

柴田直樹 (滋賀大学)

高田喜朗 (高知工科大学)

山口一章 (神戸大学)

今年度から、本論文誌の配布はオンライン版のみとなります。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらをご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべて WWW ページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>) よりたどることができますので、MPS 研究会および論文誌 TOM に関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

^{†1} 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良先端科学技術大学院大学